

# 東日本大震災 世界から届いた支援

東日本大震災の衝撃は瞬く間に世界中に広がり、各国・地域・国際機関から救助隊、支援物資、寄付金、そして数えきれないほどの温かいメッセージが日本に届けられた。その中で多く聞かれたのが、長年の協力により関係を築いてきた開発途上国からの「恩返しをしたい」という声だった。



## トルコ



- 支援内容
- ・救助隊 (32人)
  - ・寄付金
  - ・支援物資 (毛布、シーツ、缶詰、水)

被災10日目に緊急援助隊を日本に派遣してくれたトルコ。宮城県多賀城市、石巻市雄勝町、七ヶ浜町で行方不明者の捜索活動が行われ、隊員からは「1999年のトルコ北西部地震で最も早く救助隊を送ってくれた国の一つが日本。その恩返しの気持ちで活動した」というコメントがあった。



## イラク



(撮影: 玉本英子)

- 支援内容
- ・寄付金

首都バグダッド市内で犠牲者の追悼、被災者への激励・連帯を表明するチャリティーコンサートが開かれ、約300人が来場。「上を向いて歩こう」などが演奏された。また1960~70年代、多くの日本企業がイラクに進出していたこともあり、日本の技術や日本人に対する信頼は厚く、イラク政府は石油購入権を日本企業に優先的に売却する意向を表明した。



## 中国



- 支援内容
- ・救助隊 (レスキュー隊員15人)
  - ・支援物資 (テント、毛布、手提げ式応急灯、水、仮設トイレ、ゴム手袋、ガソリンなど)

2008年の四川大地震では、約6万人もの尊い命が犠牲になった中国。上海では、現地の民間企業60数社が日本総領事館に義援金を寄せ、募金を呼びかけた企業の会長からは「四川大地震では日本が真っ先に支援してくれた。今度はわれわれの出番だ」という力強いコメントが届けられた。



## パラグアイ

- 支援内容
- ・寄付金



パラグアイの主要な農作物は大豆。かつて海を渡った日本人移住者たちの努力と日本の農業支援により、原生林だった地に農業が定着した。東日本大震災後は、日本人移住者が生産した大豆を使って長期間保存可能な豆腐を作り、100万丁を被災地に届ける活動を続けている。パッケージにあるように、「心はひとつ。パラグアイ国民は日本を応援します」という思いが込められている。



## ケニア



- 支援内容
- ・寄付金

日本がODAで長年支援してきたケニヤッタ大学日本語学科の生徒たちが日本大使館を訪れ、「『ソウは与えられた牙を支える力がある』とケニアのことわざにある通り、日本の皆さんはきっとこの困難を乗り越えられるはず。絶対にあきらめないで」と、日本語でメッセージを寄せた。



## チリ

- 支援内容
- ・援助物資 (米、毛布)



マグニチュード8.8を記録した2010年2月の大地震など、災害多発国であるチリに対し、日本は長年復興・防災支援を行ってきた。そのような背景からチリ人の親日感情は強く、東日本大震災の後、現地では「秩序と思いやりを忘れない日本人」を讃える集いが開催され、チリ外務省の関係者ら約550人が参加。「日本が再び立ち上がることを強く確信している。『まさかの友は真の友』。この言葉を日本国民に伝えたい」とエールを送った。



## コンゴ民主共和国



- 支援内容
- ・メッセージ

首都キンシャサで開催されたマラソン大会。日本の被災者へ黙祷が捧げられたほか、大会に参加した日本大使館やJICA事務所働く現地スタッフ、プロジェクトの関係者、元JICAの研修員たちは、胸元に「日本への思いを込めて」と書かれたTシャツを着用して市内を力走した。



## モルディブ

- 支援内容
- ・支援物資 (ツナ缶)



2004年のスマトラ沖大地震・インド洋津波で被災したモルディブ。「その時いち早く支援してくれたのは日本だった」「震災前に日本のODAで建設された防波堤が被害を最小限に抑えてくれた」と感謝の声が上がり、東北の被災地にはモルディブの特産品であるツナ缶を提供してくれた。



## インドネシア

- 支援内容
- ・救助隊 (レスキュー隊員11人、事務員・メディカル4人)
  - ・寄付金
  - ・支援物資 (毛布、非常食缶詰、液化天然ガスの追加的供給)



2004年のスマトラ沖大地震・インド洋津波で最大の被害を受け、日本も緊急・復興支援を行ってきたバンダ・アチェ市。追悼行事が開かれ、「たくさん援助をしてくれた日本を、今度は私たちが助けたい」「僕たちも同じように被災した仲間。悲しまないで頑張ってください」というメッセージが届けられた。



## ミクロネシア

- 支援内容
- ・寄付金



2004年にヤップ島を襲った大型台風「スダル」によりミクロネシアの主要産業である漁業が大きな被害を受けたことから、当時日本は漁船の供与など復興を支援。「あの時助けに来てくれた日本に感謝したい」と、青年海外協力隊員が活動する高校から、生徒たちが一つ一つ手作りした千羽鶴や寄せ書きが送られた。

